

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394100073		
法人名	南医療生活協同組合		
事業所名	生協のんびり村 グループホームほんわか		
所在地	愛知県東海市加木屋町栗見坂12-1		
自己評価作成日	平成25年1月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigvosyoCd=2394100073-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自分のやることを自分で選んで決めることを大切にしている。利用者様のADL低下予防の為に、散歩や買い物などで外に出ることを積極的に取り組んでいる。2012年度は2年ぶりに全員で、利用者様の希望である1泊2日の旅行に行くことも出来た。利用者様が介護サービスを受けているからこそ、自分のやりたい事ができるように支援している。生協のんびり村の周年記念まつり、流しそうめん、盆踊り、もちつきなど地域の住民と一緒に取り組む行事が盛んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が「のんびり村」として開設した事業所の一つである。自然が多く残る環境であり、利用者や職員は、ホームの畑で野菜を作ったり、鶏を飼育している。ホーム内は廊下、食堂、リビング等広々とした造りになっており、利用者・職員と一緒に作成した作品が飾られ落ち着いた雰囲気を出している。ホームでは、外出する機会を多く作り、毎日の散歩や買い物、外食の機会も作り、利用者の希望で一泊旅行が計画されたり、家族参加の旅行や個別の外出希望にもできるだけ対応している。さらに、近くの保育園に寄って園児とふれあったり、地域の祭りに参加したり、地域住民と共同でホーム行事を開催する等、交流が盛んに行われている。また、毎月発行されるホーム便りには誕生日会、旅行、行事等の利用者の写真が掲載され、利用者が明るく楽しい穏やかな生活を送れるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を貼り出し見えるようにしている。理念というには浅いものを昨年作成した。現状職員によって実践内容が理念に基づいているかどうかはばらつきがあるので、より深めたものを作成してはどうかと考えている。	ホームでは、管理者を中心に作成した理念を、利用者や職員が見える場所に掲げている。理念にある「外出」について、職員は、利用者の希望に合わせて、日常的に支援に努めている。	現状、理念の捉え方が職員によって違う事を、管理者や職員は感じている。今後、話し合いを行い、理念にある考え、思いの統一を図られる事に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に近所の方と挨拶をする、近くの市民館の企画に参加をする、地域のお祭りに参加をするなどしている。生協のんびり村でも1年に3回東海市の組合員と行事を開催している。	ホームでは、毎年、市内に住む組合員と協力して、餅つき、盆踊り等の行事を開催しており、多くの地域住民が参加している。また、地域に開放している施設の喫茶店で利用者が飼育している鶏の卵を販売している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	南医療生協の組合員向け班会で認知症の話をした。見学の対応などでも認知症の特徴や対応について説明をしている。現場職員はあまりできていないと感じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の報告を毎回行っている。地域の方や包括支援センターの方から毎回意見を頂き活用するようにしている。	会議では、ホームの状況報告や地域包括支援センターや地域との情報交換を行っている。地域包括支援センターより、地域で高齢者向けの取り組みやボランティアについての情報を得て、登山の好きな利用者が「歩こう会」に参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの職員が毎回来ている。知多北部広域連合には報告書を時々提出に行く程度。	市の開催する地域に向けた取り組みに「のんびり村」の地域交流館の場を提供して協力している。また、管理者は、運営上で不明な点があれば、市担当者を訪ねたり、電話で相談しながら解決している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯など必要時以外は玄関の施錠はしていない。身体拘束もしていない。否定的な言葉や行動を抑制する声掛けをしないように努めている。	ホームでは、玄関の施錠をしておらず、職員の見守りで利用者の安全を確保している。また、定期的に身体拘束について研修を行う事で、スピーチロック等、拘束を行わないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は特に虐待に関する勉強会などは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現場職員が権利擁護について学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	同意書、契約書をとっている。説明時に納得できるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン時、家族が来たとき、契約時などに意見を訊くようにしている。事業所利用委員会を毎月開催している。一部職員は不十分と感じている。	ホームでは、行事を通じての家族間の交流や、年1回、独自のアンケート調査を行い、家族から意見を集め改善に努めている。また、毎月、ホーム便りを発送すると共に、個別対応での外出等があれば、写真付きで別に報告をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回の職員全体会議で行なっている。	職員は、日常的に、職員間でケア内容や業務について、意見交換している。また、月末の職員会議の議題を職員で決めることにより、有意義な会議になるように取り組んでいる。また、年2回の個人面談では、個人目標を基に話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を採用している。労働時間の管理もきちんとなっていて、不要な残業がでないようにしている。職員がやりがいをもち働ける仕組み化という、組合員活動もありつかけられているというのが現状。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での学習会、事例発表会がたくさんある。しかしその機会を有効に活用するためには、各職場での努力が必要。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東海市GH連絡会で1回/2月行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で聞き取りを行い、本人のニーズを記載している。。又、住みなれた部屋と同じような環境になるように、家具や大切にしている者を持ち込むように家族や本人にお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族や本人が困っていることを伺っている。ケアプラン作成時は家族にも見ていただき、合意の上でサービスを導入するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生協のんびり村内でも小規模多機能ホーム、グループホーム、住宅があるのでどこに合うかを判断している。契約前にお試し利用をして頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来ることを探し、日々の生活の中で活躍していただける場面を作り、入居者様同士が協力できるよう努力している。制服がなく、お世話する人、される人と分れないよう配慮している。利用者同士で助け合う場面も見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などへの参加お願いをし、入居者様と一緒に過ごす時間を持って頂ける努力をしている。家族にホームの暮らしについても理解、協力して頂けるようケアプラン立案時の面談を始めた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の計画をする際、入居者様のなじみの場所を聞き、行けるようにしている。入居者様の知人などには自由に訪問して頂いたり、電話を掛けて頂いたりしている。	ホームでは、友人、知人から定期的に電話が掛ってきたり、直接訪ねて来られ、一緒に過ごされている。また、職員支援により、入居前からの馴染みのスーパーへ買い物に出掛けたり、思い入れのある場所へ出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に利用者同士が協力して料理、洗濯、掃除など行なっている。また、日々のおしゃべりや外出、行事を通して利用者同士の楽しい時間を作っている。利用者様が一緒にお風呂に入るなど関係作りができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば、受けている。大体は契約が終了すると関係も終わってしまう。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりに担当をつけ、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、記録をする際には入居者様本人が語った言葉を気にとめ、記録している。	ホームでは、入居時に本人、家族から、利用者の生い立ちや生活習慣について聞き出し、それらの情報をセンター方式にまとめて、職員間で情報を共有している。また、日々の利用者の言動を記録する事で、訴えない利用者の思いの把握にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期面接でシートに生活歴を記入している。また、日常の会話の中からこれまでの暮らしの情報を引き出そうとしている。しかし、まだ足りていないと感じている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのシフトの職員が一日の流れに沿って記録をしている。申し送り、ミニカンファレンスなどで日々の変化について情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が担当を持ち、本人・家族の希望をまとめ、職員会議で他の職員を意見交換し、介護計画を作成している。	介護計画の見直しは、基本3か月毎であるが、状態の変化時には、随時、見直しを行っており、家族に説明し同意を得ている。また、毎月の職員会議では、担当職員を中心に、3名程の利用者について検討しながらモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は毎日行っているが、介護計画の見直しにつながる記録はまだ少ない。アセスメントができていないのだろう。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「エビフライが食べたい」、「電車に乗りたい」など、利用者の要望にできるだけ応える努力をしている。1泊旅行、外出、外食など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさん、組合員さんに情報を頂き、「みかんがり」、「芋ほり」、市民館での「懐かしの歌」など、地域の行事などに積極的に参加するようにしている。行方不明時の捜索なども協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回の往診、必要に応じて診療所、専門外来のある総合病院へ受診している。家族の協力を得て、在宅時と同じ医療機関に継続して通っている方もみえる。	ホームでは、運営法人の協力医により、月1回の往診と週1回の訪問看護があり、運営法人の協力医への受診は、職員支援が中心に行われている。また、希望により訪問リハビリを受ける事も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護師が来て、報告や相談をしている。緊急時、アクシデント時も相談、報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は入居中の状況についてサマリーを病院へ渡している。治療が不要になれば、すぐに退院させてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの指針を作成して本人・家族に説明している。今までに看取りまで行なったケースはない。	ホームでは、入居時に、本人、家族に対して医療行為は出来ない事を伝えと共に、利用者の状態に合わせて法人の病院に生活の場を移す等の支援を行う事を説明している。なお、ホームでは、現状、看取りケアは行われていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルはあるが、訓練はできていないため職員間に対応の差がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回避難訓練を行なっている。	ホームの訓練は、消防署立ち会いの下、開催されており、地域の住民も参加して行われている。職員は、訓練時に消火器や非常通報装置の使用方法を学んでいる。また、非常時の食料、水は3日分用意している。	災害訓練が、年1回のみであり、今後、年2回以上の訓練開催、及び夜間を想定した訓練を行う事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には出来ているが、時にくだけ過ぎた言葉遣いや忙しさのあまり声掛けを忘れてしまうこともある。利用者様のカンファレンスを通して否定する言葉が利用者様に不安を与えてしまうことを確認できたので、意識するようにはなっている。	ホームでは、接遇マナーやプライバシーについて研修を行い、常に年長者に対して敬意を持って接するよう指導している。また、利用者に対する職員の声かけが不適切な場合、管理者は、その場で注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日々の会話から入居者様の思いや希望を引き出せるように働きかけている。例えば、10時、15時のお茶の時間にはメニューを作成して、ご本人に選んで頂いている。さらに、外食に出かける際は、メニューから好きな物を注文して頂くなど自己選択、自己決定を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午後は職員体制が良いので、希望に沿えている。できる限り、一人ひとりの調子、要望にそって1日を一緒に過ごしている。要望があれば食堂のボードに書いて貼っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は、入居者様自身に洋服を選んでもらえるよう声かけしている。また、朝や歯磨き、入浴後など鏡を見てもらい、身だしなみを気にかけてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に食事を作り、食べ、片付けを行い、楽しみとなっていると同時に1日の中で入居者様の能力を発揮する機会となっている。好き嫌いに配慮している。	ホームでは、利用者と職員と一緒に食材の買い物や調理を行い、同じテーブルで食事をしている。さらに、ホームの畑で採れた野菜や、飼育している鶏の卵を使って料理をしたり、おせち料理等、行事食を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎食後とにチェックし、変化があった際にはより摂取しやすいものに変更できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全入居者に毎食後はできていないが、1日1回はケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレで排泄できるよう、排泄パターンをチェックし、本人の様子や時間をみてトイレ誘導を行っている。	ホームでは、日中はトイレでの排泄を心掛けており、必要な方には、チェック表を使って排泄パターンを把握し、トイレへ案内している。また、排泄が失敗した場合、他の利用者に分らないように羞恥心に配慮したケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1回は外に出掛けて運動すること、ラジオ体操、水分をしっかり摂ることなどがけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴されていない期間が長い方から、誘っているが、本人の希望や散歩から帰ってきて汗をかいたタイミングなどにも合わせ、本人が嫌がらず入って頂けるよう心がけている。	ホームでの入浴は、基本、週2～3回であるが、毎日の入浴も可能である。拒否される利用者に対して無理に入浴させる事を行わず、時間を開けたり、職員を代えて対応している。また、入浴剤や季節に合せ、柚子湯を用意し、入浴を勧める等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は活動して、夜は寝る生活パターンができるようにしている。何時起床をは決めず、その日の体調、気分に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更、追加があった時には特に注意して様子を見るようにしている。カルテワゴンに処方箋をはさんでおいてあるので、すぐに分らない時には調べる事ができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意なこと、できることを生かし、料理、洗濯、掃除、買い物など日常生活を皆で協力して送っている。又、天気の良い日には「どこか散歩に行きたい」、「コーヒーを飲みに行きたい」という要望が出る事があるので、希望が叶うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	全員が1日1回は外の空気を吸ってもらいたいと思ひ、散歩、外出できるようにしている。個別でのお出かけやご家族にも協力頂いて、本人の希望されるところへ出かける機会もつくっている。職員の仕事のついでに郵便局や知多北部広域連合、南医療生協の本部などに利用者様と一緒に出掛けることがある。	ホームでは、利用者の希望に合わせた外出を心掛けており、毎日、近所の公園への散歩やスーパーへの買い物に出掛けている。また、ホームでは、泊まりの外出にも取り組んでおり、利用者の楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は自分でお金を持っている。全員「グループホームほんわか」でお金を預かっていて、喫茶店や自分の買い物をする時にはそこから支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をして家族と話すことはある。お一人の方は携帯電話を持っているが、最近ADL低下してきており使う機会が減った。手紙はもらえばかりである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	TVは基本的につけていない。ラジオも内容で判断して使用している。季節の花があれば、机の上によく飾っている。	ホーム内には、貼り絵や習字等の利用者の作品や、行事や旅行の写真が飾られており、来設者は、利用者の様子を知ることができる。また、地域の住民により手作りで設置されたベランダがあり、利用者は自由に出入りが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で座る場所がいくつかあり、入居者様どおしで輪を作ったり、職員と1対1でいたり皆さん思い思いに過ごしている。しかし1人になる空間は廊下の隅くらいしかない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には使い慣れたものを持って頂けるようお願いしている。実際はあまり持ってこない人が多い。もらい物の家具、写真、自分の作品やカレンダーを部屋に貼って工夫している。	居室への家具等の持ち込みは自由になっており、家具の配置は安全に配慮し決めている。また、利用者の状態に応じて、ポータブルトイレやセンサーマットを使い、利用者の生活しやすい居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関の鍵を日中、開錠している。居室での転倒を防ぐため家具の置き位置を工夫している。調理器具や食器、お茶の入ったやかんなどが手の届くところにおいてある。		

(別紙4(2))

事業所名 生協のんびり村
グループホームほんわか

作成日: 平成 25年 3月 5日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	現状、理念のとらえ方が職員によって違うことを、管理者や職員は感じている。今後、話し合いを行い、理念にある考え、思いの統一を図られること。	グループホームほんわかの理念を考えなおして、職場全体としてこの目標に向かっていこうと思えるものをつくる。	2013年2月の職場会議から、理念づくりの検討に入った。	3ヶ月
2	35	災害訓練が、年1回のみであり、今後、年2回以上の訓練開催、及び夜間を想定した訓練を行うこと。	火災の際の避難訓練と消防関係の機器の取り扱いについて職員に周知している。しかし、職員全員に必ずしも避難訓練の反省や機器の取り扱いについて伝わっていないので、全員が分かるようにしていく。夜間を想定した避難訓練を行う。	消防署に消防訓練を実施することの報告書をきちんと提出すること。職員全員に避難訓練の結果と反省、機器の取り扱いについて周知する。夜間を想定した避難訓練を2/22に行ったので、その反省を職員に周知していく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月